

人民の護民官か労働組合の書記か

ロシアの民主主義的変革は、その社会＝経済的本質からいえばブルジョア革命である。この正しいマルクス主義的命題をくりかえすだけではたりない。それを理解する能力をもち、それを政治的スローガンに適用する能力をもたなければならない。現代の、すなわち資本主義的な生産関係を基盤とする、およそあらゆる政治的自由は、ブルジョア的自由である。自由の要求は、なによりもブルジョアジーの利益を表現する。この要求をはじめて提出したのはブルジョアジーの代表者であった。ブルジョアジーの支持者は、手にいれた自由を穏健実直なブルジョアの寸法におしこみながら、またその自由を、平和な時代にはもっとも洗練されたやり方で、嵐の時代には兇暴で残忍なやり方で、革命的プロレタリアートを弾圧することと両立させながら、いたるところで主人としてその自由を利用した。

しかし、このことから、自由のための闘争の否定や軽視を結論できるのは、ブントーリ派のナロードニキや無政府主義者、それに「経済主義者」だけである。このインテリゲンツィアの＝俗物的な教えをプロレタリアートにおしつけるのに成功したばあいがあっても、それはいつもただ一時的で、しかもプロレタリアートの反抗にさからってなされたにすぎない。プロレタリアートは、政治的自由が自分たちに必要であること、それが直接にはブルジョアジーを強化し組織化するにもかかわらず、だれよりも自分たちに必要であることを、本能的に把握していた。プロレタリアートは、階級闘争を避けることに自分たちの救いを期待しないで、階級闘争の発展に、その幅、意識性、組織性、断固さの増大に、この救いを期待している。政治闘争の諸任務を引きさげるものは、社会民主主義者を、人民の護民官から労働組合の書記にかえてしまうものである。民主主義的ブルジョア革命におけるプロレタリアートの諸任務をひくめるものは、社会民主主義者を、人民革命の指導者から自由な労働組合の首領にかえてしまうものである。

しかり、人民革命なのだ。社会民主党は、人民という言葉のブルジョア民主主義的な濫用に、まったくたくたくも反対してたたかってきたし、いまもたたかっている。社会民主党は、この言葉で人民の内部の階級敵対にたいする無理解がおおいかくされないように、要求する。社会民主党は、プロレタリアートの党の完全な階級的独自性が必要なことを無条件に主張する。しかし、社会民主党が「人民」を「諸階級」に分かつのは、先進的階級が自分のなかに閉じこもってしまい、狭い寸法のなかに自分を限定し、世界の経済的支配者が尻ごみしはしないかという考えによって自己の活動を去勢するためではなく、先進的階級が中間的な階級の中途半端性、動揺性、不決断にわずらわされずに、それだけ大きな精力と、それだけ大きな熱情をもって、全人民の事業のため全人民の先頭に立って闘争するためである。

民主主義革命における積極的な政治的スローガンをかかげるかわりに、屁理屈をこねながら、「階級的」という言葉をあらゆる性と格に変化させてくりかえすだけの、現在の新イスクラ派は、まさにこのことを理解していないことがしばしばである！

第9巻 P104~105 「民主主義革命における社会民主党の2つの戦術」

1905年6～7月に執筆

ポイント

プロレタリアートは、階級闘争を避けることに自分たちの救いを期待しないで、階級闘争の発展に、その幅、意識性、組織性、断固さの増大に、この救いを期待している。政治闘争の諸任務を引きさげるものは、社会民主主義者を、人民の護民官から労働組合の書記にかえてしまうものである。民主主義的ブルジョア革命におけるプロレタリアートの諸任務をひくめるものは、社会民主主義者を、人民革命の指導者から自由な労働組合の首領にかえてしまうものである。

社会民主党は、人民というこの言葉で人民の内部の階級敵対にたいする無理解がおおいかくされないように、要求する。社会民主党は、プロレタリアートの党の完全な階級的独自性が必要なことを無条件に主張する。

そして、社会民主党が「人民」を「諸階級」に分かつのは、先進的階級が自分のなかに閉じこもってしまい、狭い寸法のなかに自分を限定し、世界の経済的支配者が尻ごみしはしないかという考えによって自己の活動を去勢するためではなく、先進的階級が中間的な階級の中途半端性、動揺性、不決断にわずらわされずに、それだけ大きな精力と、それだけ大きな熱情をもって、全人民の事業のため全人民の先頭に立って闘争するためである。